明治二十歳八月十九日日食九分九厘餘

午後二時三十六分右の下より虧はじめ三時四十八分上の右に甚し四時五十三分上と左の間にをはる
但し白河より佐渡に至ル線路ハ皆既なるべし

此度の日食ハ誠に珍らしき現象にて今を去る事百一年前天明六年正月元日以来曾てなきよし惣ての物の色ハ奇異にして全く蝕さるるに及んでハ咫尺も辨ずる事得ずとハ誠に近年に珍らしき事にまた稀し

誂若本述

明治二十年七月　日　御届

本所区林町一丁目　画工兼出版人　小林清親

小林板

国

人力車

明治二十歳八月十九日日食九分九厘餘

午後二時三十六分右の下より虧そめ三時四十八分上の右ニ甚し四時五十三分上と左の間ニをハる但し白河より佐渡ニ至ル線路ハ皆既なるべし

此度の日食ハ誠ニ珍らしき現象ニて今を去る事百一年前天明六年正月元日以来曾てなきよし惣て物の色ハ奇異ニして全く蝕さるゝニ及んでハ咫尺も辨さる事得ずとハ誠ニ近年ニ珍らし事ニなん有し

謙斎述

明治二十年 八月 日 御届

本所区林町一丁目廿六番地 画工兼出版人 小林鉄吉

小林板

人力車

揚洲画